

あなたもカウンセラー

—集団の理解と指導—

教育相談部 齋藤 洋一・畠腹 桂子・玉川 邦夫

本号では、「集団の理解と指導」についての一つの方法として、学年主任、学級担任、教科担任等が互いに連携し合って進めた事例を紹介します。

第91号 集団で規則を破る中学生

第93号 家族カウンセリングを必要とする児童生徒

第92号 腹痛を理由に休みがちになってきた中一男子

第94号 授業離脱を繰り返す男子中学生

授業離脱を繰り返す男子中学生

1 事の起こり

2学期の中間テストの成績の処理も終わったころ、学級の3人の問題行動について教科担任から学級担任に報告があった。

この生徒たちは、夏休み明けから、A男、B男、C男が連れだって授業中に教室を出ていくことを繰り返した。英語の女性教師は「教室から出ていくのを止めることができず、どう言ったらいいか困ってしまった」また、理科の若い教師は「初めてのことでおどおどしてしまった」ということだった。その後、担任はこの3人に厳しく指導したが改善がみられなかった。

そこで、学級担任だけでは解決できないと判断し、生徒へのかかわり方等について学年主任に相談した。学年主任は学年全体で共通理解に立ち、すぐに対応を考えていくことにした。

2 学年会で共通理解を

問題行動をとらえるためには、

- それぞれの生徒について、問題の原因は何か。
- 3人の生徒に、共通した問題は何か。

などを知る必要がある。そのために、学業、性格、行動、友人関係や、生育歴、親の養育態度等を理解したり、科学的方法による分析も考えた。

さっそく、次の3つの資料を担当から提出してもらった。

● 学級の実態

2年になって学級編成され、学級担任（社会科担当）も2年から担当。

学級の雰囲気は、男女とも小グループに分かれることが多く、男子や女子の対立も見られ、学級としてのまとまりに欠ける。

● 問題の概要

授業離脱や遅刻が、特に、若い教師や女性教師の担当する授業で見られる。清掃をしない、女生徒をひやかしたりするなどの行動を共にする。

● A男、B男、C男について

(下表)

	知能偏差値・学力	性格行動の特徴	家庭環境	部活動
A男	60 中位	3人のグループのリーダー、言葉使い乱暴、なげやり、自己顕示欲強い	母親、本人、弟との3人母子家庭	バレー部に所属、社会が得意
B男	45 下位	おとなしい自己中心的	両親、本人の3人家族 母親は本人を連れて再婚 母親は社会的	美術部に所属 絵をかくのが得意
C男	40 下位	付和雷同的	祖母、両親、姉、本人の5人家族 両親共働き、おばあちゃん子	バスケットボール部に所属、体育が得意